

〔尾張名所圖會前編六〕三盆砂糖享保の末、同村(生地)の原田某造り始じ、由、物類品、隣に砂糖昔は和出すと見えたり、今も原田喜左衛門といへるも、の連綿としてこれを製し、毎年國君に貢ぐよし、

〔紀伊續風土記物産十下〕砂糖

元文四年府下の安田長兵衛といふもの始めて甘蔗苗をうえて、同五年に始めて砂糖を製し、寛政二年より其製法を諸州に傳ふ、皇國にて砂糖を製する始といふ、今に至りて安田氏の家、及海部名草二郡の農家にて、黑白の二糖を製す、

〔讚糖起原〕向山翁砂糖開基碑

夫砂糖者以甘蔗作之、人家食物之用不少矣、然上古無之、蓋享保年間自琉球始傳其法於薩州也、吾讚之國府索其法既久矣、嘗命醫池田玄丈者探索之、然不能得矣、于時有向山翁者、即玄丈之弟子、芒翁年猶少年遊學于京師、時有薩州某生者能製砂糖、翁乃就學其法、故能達其術、國府聞翁能達其術、乃召出令製砂糖、翁已蒙其命、亦有薩州人良助者來讚、時得疾大困、翁爲診治、遂愈、良助本能達造砂糖術、於是爲翁佐之、二人同心勉勵、製出水糖、紫糖、霜糖、盡能成之、皆得絕品、享和二年癸亥、國府以翁本善醫且能創製砂糖爲藥坊主、給月俸、後竟至拾五口、於是封內製砂糖者甚多、皆以出得利益、亦國中富饒之一助也、翁諱政章、稱周慶讚、大内湊村人也、文政二年九月廿六日、因病沒、齡七十四、翁已沒後、其鄉人思砂糖利潤及人不少、乃共爲建其祠祭之、○中略

弘化三歲丙午仲某

藩儒高尾養撰

〔寛政四年武鑑〕松平筑前守齊隆○筑前 時獻上五月 水砂糖 松平肥前守治茂○肥前 時

獻上四月 水砂糖 鍋島加賀守直愈○肥前 時獻上十一月 水砂糖

松平主計頭忠馮○肥前 時獻上隔年 白砂糖

〔守貞漫稿五〕平野町唐物問屋

砂糖商